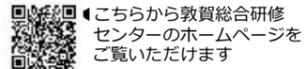


6. 敦賀総合研修センター 公開研修コースのお知らせ



敦賀総合研修センターでは、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じた上で、29コースの開催を予定しており、以下はお申込み期限間近となっている主なコースの内容です。公開研修コースの詳細、応募方法は、当社ホームページをご覧ください。

<http://www.japc.co.jp/tsuruga-training/index.html>

研修名	研修概要	研修期間	申込期限
原子力入門コース	原子炉での核分裂など原子力発電の基本的原理を理解するとともに、原子力発電所で使われる代表的な機械設備と電気設備の概要などを学びます。核分裂や連鎖反応など、原子力発電の概念を学びたい方にお勧めします。	1月17日 ～ 1月18日 (2日間)	12月8日
原子力エネルギーコース	エネルギー資源を海外に頼っている我が国の現状を理解し、福島第一原子力発電所の事故後の地球温暖化への対応を含めた我が国のエネルギー政策について学びます。	1月19日 (1日)	12月9日
ヒューマンファクターコース	人はエラーを避けられません。人間の特性を知り、仕事の中でのエラーを防ぐ対策を講じることが大事です。本研修ではヒューマンファクターの基礎知識(人間の基本特性や集団特性など)を理解するとともに、現場作業時のヒューマンエラーの防止方を学びます。ヒューマンエラーとは人に起因する誤りのことであり、人為ミスとも呼ばれます。誰もが起こす可能性があるヒューマンエラーの防止方を学ぶことはとても有益です。広く一般の方にもお勧めします。 ※2日間のコースですが、1日単位での受講も可能です。	1月26日 (基礎) 1月27日 (管理・事例)	12月16日
安全文化コース	原子力産業界が取り組んでいる安全確保を最優先とする安全文化の醸成について、企業倫理・技術者倫理や不祥事トラブル事例などを題材として学びます。 原子力利用に携わるすべての組織の方はもちろんのこと、企業による不祥事やトラブル事例が後を絶たない昨今の国内外事情に鑑みて、一般の方への受講もお勧めします。	1月26日 PM ～ 1月27日 (1.5日間)	12月16日

公開研修に関する
お申込み・お問合せ先

敦賀総合研修センター(敦賀市香見165号9番地6)
電話:0770-21-9700 FAX:0770-21-9726(研修申込み専用)
メールアドレス:tsuruga-tr-center@japc.co.jp



げんでんふれあいギャラリー展示のお知らせ



こちらからげんでんふれあいギャラリーのホームページをご覧ください

◆己書敦賀 十人十色展～2022～ 11月1日(火)～11月6日(日)(最終日は15:00まで)

敦賀で活動する己書師範6名(代表:江草 真理 様)と、生徒の皆様による作品展です。「地参知笑」をテーマに活動されている皆様の作品を、200点展示中です。



◆2022 写真コンテスト 第16回げんでんふるさと大賞 入賞作品展 11月14日(月)～20日(日)

今回で16回目の開催となる、げんでんふれあい福井財団主催の写真コンテスト「げんでんふるさと大賞」の入賞作品展です。今回、「ふるさとの四季『しられざる宝』」をテーマに、入賞作品を約40点展示予定です。



◆洋裁ちくちくの気軽にほっと手作り展 11月22日(火)～11月27日(日)

洋裁ちくちく(代表:澤井 登志美 様)の7名の皆様による作品展です。着物リメイクや和小物、コート、ワンピース、バッグなどの手作り作品を70点展示予定です。



◆松原公民館切り絵の会 創作切り絵展～つながり～ 11月29日(火)～12月4日(日)(最終日は15:00まで)

松原公民館切り絵の会(代表:霜田 悟 様)の皆様と、霜田 愛華 様による作品展です。古民家や植物、動物などを題材にした作品を30点展示予定です。



お問合せ

げんでんふれあいギャラリー 敦賀市本町2丁目9-16
フリーダイヤル 0120-749-201 FAX 0770-25-5603
開館時間 10:00～16:30※ 休館日 12月29日～1月3日
※新型コロナウイルス感染予防対策のため、開館時間を短縮しています。

<http://www.japc.co.jp/tsuruga/fureai/event/fureai.html>



感染防止徹底宣言ステッカーを取得しています

本資料の作成元 お問合せ先: 日本原子力発電株式会社(略称:げんでん) 敦賀事業本部 立地・地域共生部

TEL:0770-25-5713 住所:敦賀市本町2丁目9-16

げんでん いんぷおめーしょ 11月号

1. 敦賀発電所の状況(2022年11月1日現在)

プラント(炉型)	状況
1号機(沸騰水型)	●2017年5月15日～ 廃止措置工実施中(廃止措置期間:24年) ○2015年4月 営業運転終了 ○取水口エリア解体工事(2022年10月3日～) 廃止措置とは、運転を終了した原子力発電所を解体・撤去し、これに伴い発生する廃棄物を処理・処分し、更地にするまでの一連の作業・措置のこと。
2号機(加圧水型)	電気出力116.0万kW、1987年2月17日の営業運転開始以降の総発電電力量1922億9908.3万kWh ●2011年8月29日～ 第18回定期検査中 ●新規制基準への適合性確認審査対応中 ○福島第一原子力発電所事故を踏まえた安全対策を行っています。

= 敦賀発電所2号機の新規制基準への適合性確認審査の状況について =

原子力規制委員会による審査は、現在、敷地内破砕帯評価と地震動評価(地震の揺れ)の二つの論点について進められています。

2020年2月の敷地内破砕帯評価に関する審査会合において、審査資料に当初記載していたボーリングコアの肉眼による観察結果を削除し、詳細データとなる顕微鏡によるコアの薄片観察結果のみの記載に変更したことについて、不適切であるのご指摘を受け、2021年8月18日に開催された原子力規制委員会において、「調査データに基づく当社の評価結果の信頼性が確保されるために必要な業務プロセスの構築が確認されるまでの間は、審査会合を実施しない」という方針が示されました。

当社は業務プロセスの構築を行うため社内規程を改正し、原子力規制検査で説明を行い、適宜ご指摘に対して改善を図ってまいりました。

また、改正した社内規程の教育を行い、審査資料作成計画書を作成、本計画書に基づき審査資料を作成し、社内監査によりこれら一連の業務プロセスが適正に行われたことを確認しました。そして、これら一連の取り組みについて2022年9月29日の公開会合で原子力規制庁に説明しました。

その後の10月26日に行われた原子力規制委員会において、原子力規制庁から規制委員に説明された結果、以下の評価を頂きました。①業務プロセスの構築がなされるとともに、現時点で確認した範囲においては、継続的に品質を確保する取組みがなされていること。②審査資料作成プロセスが不十分だったことにより、原子力規制委員会の規制活動に影響を及ぼしたことを踏まえ、深深度SLⅢ※(重い順から3番目)の評価とすること。③新規制基準適合性審査を再開すること。

審査の進展をご期待いただいている地域の皆さまに多大なるご心配をおかけしておりますことを、心より深くお詫び申し上げます。

当社としては、本事案を重く受け止め、引き続き、審査資料の信頼性を確保するとともに、継続的な改善を行い、原子力規制検査及び審査に真摯に対応してまいります。

※「深深度」とは、原子力安全または核物質防護への影響等により、重い順から4段階(SLⅠ, SLⅡ, SLⅢ, SLⅣ)で評価され、内容に応じて規制措置が行われます。(SL:Severity Levelの略称)

2. 敦賀発電所3, 4号機準備工事の状況(2022年11月1日現在)

現在、原子炉建屋背後斜面の緑化管理等の建設予定地維持管理およびコンクリート製造・供給プラントの設備維持管理等を継続して行っています。



建設予定地の状況(2022年10月25日撮影)

3. トピックス

(1) 敦賀総合研修センター開所10周年

10月1日、敦賀総合研修センターは、開所10周年を迎えました。当センターは、原子力安全の観点から人材育成の更なる充実を図るため、当社社員研修はもとより、地元をはじめとする国内の技術者や学生、また海外からの研修生等を対象とした体系的な研修を行う施設として、敦賀市杵見に設立しました。

設立以来29の公開研修コース、電力向け研修コースや受託研修を含めて、年間約200コースを開催しており、過去10年間で開催した研修は1,924件、延べ受講者数は約13,000名を数えています。(2021年度末現在)

近年では新型コロナウイルス感染防止対策として、県外の受講者の受入れをお断りするなど、当センターご利用の受講者の方々にご迷惑をおかけすることもありましたが、徹底した感染防止対策を施すことで、本年5月以降は県外受講者の方の受入れも再開しており、コロナ禍前のように活気ある学びの場となっています。

当社はこれからも、社員、および原子力に関連する企業の方や原子力を専攻している学生さんをお迎えし、技量向上や将来的に原子力に関わる人材の確保や育成に取り組んで参ります。



保修訓練設備での実習の様子



安全体感訓練の様子



市内高校生への放射線測定実習の様子



海外受講生の教育シミュレータ実習の様子

(2) 西村原子力防災担当相による美浜原子力緊急事態支援センターご視察

10月9日、西村明宏原子力防災担当相他が美浜原子力緊急事態支援センターをご視察されました。

11月に関西電力美浜発電所での事故を想定して実施する国の原子力総合防災訓練に先駆けたとご視察であり、当日は関西電力美浜発電所、竹波原子力防災センター、美浜オフサイトセンターもご視察されました。

美浜原子力緊急事態支援センターでは、原子力発電所での事故時に高放射線下で活動する自走式の小型ロボット等を見学していただきました。

当センターは、これからも訓練を重ね緊急時対応の実効性を高めるとともに、ご視察等による広報活動に努めてまいります。



美浜原子力緊急事態支援センターご視察の様子

4. コミュニケーション活動

(1) げんでんネクサス懇談会を実施

9月28日、今年度第1回目のげんでんネクサス懇談会[※]を開催し、9名のネクサス委員の方に参加いただきました。今回は、当社から「事業運営状況の近況」を説明し、外部講師による「放射線と放射能について」の講演後、ネクサス委員の方と意見交換を行いました。

当社事業に関しては、1号機の廃止措置計画や原子力専門会社である当社の特性についての質問をいただきました。また、放射線の人体への影響やヨウ素剤配布の意味について、外部講師からの説明をまじえ意見交換を行いました。



げんでんネクサス懇談会の様子 (写真手前 当社社員)

[※]当社は、1998年度より嶺北地区の有識者の皆さまから当社の事業運営やエネルギー・原子力についてご意見を伺う「げんでんネクサス懇談会」を実施しています。

(2) 「2022 若フェス」イベントにブース出展

10月9日、若狭町鳥浜「縄文ロマンパーク」において、「2022 若フェス」が開催されました。当社が出展したブースでは、来場の皆さまを撮影した写真キーホルダー作成と、日本原子力研究開発機構の廃止措置工事で発生したクリアランス金属や減塩しお、湯の花といった身の回りに存在する放射線の測定体験をして頂きました。あいにくの雨模様にもかかわらず、多くの皆さまにブースへ足を運んでいただきました。

当社は、これからも地域の行事に協力し、地域の皆さまとのコミュニケーションを深めてまいります。



キーホルダー写真撮影の様子



キーホルダーの大きさに合わせて写真をカットする当社社員の様子



放射線測定体験の様子

(3) 「敦賀マラソン」に運営スタッフとして参加

10月16日、3年ぶりに「敦賀マラソン」が開催され、新型コロナウイルス感染防止対策として、県民限定の1,168名が参加。当社は運営スタッフとして参加し、通過されるランナーの皆さまに給水サービスを行いました。

また、当社からもランナーとして社員が参加しました。

さわやかな秋晴れの下、総合運動公園陸上競技場を発着点とする新コースなど、ランナーの皆さまは懸命にゴールを目指しました。

当社は、これからも地域の行事への参加を積極的に行ってまいります。



ランナーの皆さまへの給水サービスを行う当社社員の様子

(4) 「美浜町民レガッタ」レースに参加

10月16日、第35回美浜町民レガッタ大会が美浜町の久々子湖で開催されました。

「美浜町民レガッタ」は、地元で盛んなボート競技に親しみを持ってもらい、競技人口を拡大しようと開かれている大会で、第1回大会は1988年と歴史は古く、日本国内で開催される住民参加型のレガッタ大会としては国内最大級の規模です。

今回、新型コロナウイルスの影響もあり、3年ぶりに開催されました。

レースは、500mの距離で行われ、強い日差しが照りつけるなか、8部門に計73クルーが出場しました。

美浜原子力緊急事態支援センターでは、「シニアの部」、「スーパーシニアの部」に各1チームが参加し、レガッタ初心者が多いなか、楽しむことを意識してレースに挑みました。

チーム一丸となって挑戦した結果、両部門とも上位入賞(4位)と好成績を残すことができました。

今後も美浜町民の方々と交流をより深めてまいります。



レース中の様子(写真手前 美浜原子力緊急事態支援センターチーム)



シニアの部、スーパーシニアの部：4位入賞

5. 主な報道発表 (2022年10月3日以降)



◀こちらから当社ホームページをご覧ください

詳細な内容は当社ホームページ <http://www.japc.co.jp> をご覧ください。

10月26日

(当社コメント) 敦賀発電所2号機ボーリング柱状図データの記載の変更に係る原子力規制検査の結果及び今後の対応について

本資料1ページ「敦賀発電所2号機の新規制基準への適合性確認審査の状況について」をご覧ください。